2018年8月19日

福音書からのメッセージ

わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。
（ヨハネによる福音書6章56節）

今日の福音書の言葉を、何の抵抗もなく受け入れることができたでしょうか。イエス様の肉を食べ、またその血を飲むことによって、わたしたちは永遠の命を得、終わりの日に復活させられる。そう言われても、文字通りに捉えるととても恐ろしく感じます。実際イエス様の周りにいた多くの人は、このイエス様の言葉を聞いて離れて行ってしまいます。人の肉を食べるなどできるかと、考えてしまったのです。

しかし教会に集っている人たちの多くは、このイエス様の言葉を違和感なく聞いています。それは聖餐式の場面を思い起こすからではないでしょうか。

聖餐式では「あなたのために与えられた主イエス・キリストの体」と告げられながら渡されるパンを、アーメンと言いながらいただきます。そして「あなたのために流された主イエス・キリストの血」と告げられながら傾けられた杯から、アーメンと言いながらぶどう酒をいただくのです。

文字通り、わたしたちは聖餐式がおこなわれるたびに主イエス・キリストの体をいただき、そして主イエス・キリストの血を飲む。まさに今日の福音書でイエス様が言われた言葉、「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む」という行為を、わたしたちは聖餐式の中で実践しているのです。教会ではこの聖餐式を、とても大切に守ってきました。ではこの聖餐式は、わたしたちにとってどのような意味を持つのでしょうか。

わたしたちがいただくパンとぶどう酒は、特別なものではありません。しかし祈りによって、信じる人には特別な物になるのです。司祭はこのように唱えます。

「どうかみ言葉と聖霊により、主の賜物であるこのパンとぶどう酒を祝し、聖として、わたしたちのためにみ子の尊い体と血にしてください」。

イエス様は約束されました。「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる」と。ここを原文通りに正確に訳しますと、「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしの内にいつもとどまり、わたしもまた、その人の内にいつもとどまる」となります。

この体の中に、ずっといてくださるのです。とどまってくださるのです。わたしたちと共に歩き、共に泣き、共に笑い、共に痛み、そして導き、背負い、いつまでも寄り添ってくださる。そのために、「わたしの肉を食べなさい」とイエス様は言って下さるのです。

「わたしを食べる者もわたしによって生きる」、これがわたしたちに対してなされた、イエス様の約束なのです。その喜びを感じながら、聖餐に臨みたいと思います。

桃山基督教会

〒612-8039
京都市伏見区御香宮門前町184
TEL/Fax　075-611-2790
メール momoyama.kyoto@nskk.org
＜教会ホームページ＞
http://momoyama.hannnari.com/